

グループホーム シライシップ

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------|---|-------|----------------------------------|
| . 理念に基づく運営 | | | |
| 1. 理念と共有 | | | |
| 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | | |
| | 「気くばり、目くばり、心くばり」を基本とし、その人らしく毎日を気持ち良く過ごせる様に心がけ、地域で普通の暮らしができる様に配慮している。 | | |
| 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | | 今後も理念の共有を継続し、実践していけるよう日々取り組んでいく。 |
| | 「気くばり、目くばり、心くばり」の理念をホーム内に明示し、申し送りの際に確認している。 | | |
| 3 | 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる | | |
| | 家族や地域の方、ボランティアの方等に、グループホームの理念を理解していただけるようお話ししている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | |
| 4 | 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている | | |
| | 戸の上市場に毎日買物に行ったり、隣近所に遊びに出かけることにより、顔も覚えてもらい、よく声もかけていただいている。 | | |
| 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | | |
| | 自治会には開所の時より加入しており、地域の行事「大里のバカ力」、「盆踊り大会」等に参加し、地元の方との交流を深める様に努力している。 | | |

グループホーム シライシップ

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|--|--|-----|--|
| 6 | 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる | 認知症の介護相談をしている。運営推進会議において、民生委員や地域包括支援センター職員、家族との話し合いのなかで、地域に住む高齢者の役に立つことがないか、情報を把握するよう心がけている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | |
| 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 外部評価の意義や目的を職員に伝え、その結果を職員間で共有し、指摘を受けた項目について、改善に向けた取り組みを行っていききたい。 | | 自己評価を職員全員で行って、業務改善に取り組んでいく。 |
| 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議では、ホームからの報告会にならないよう、委員の方々からの質問、意見、要望について話し合いを行っている。 | | いただいた意見を基に、よりよいホーム運営をしていくにはどうしたらよいか、職員間で話し合っていきたいと考えている。 |
| 9 | 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 運営推進会議には、毎回出席を要請しており、何らかの問題が発生した場合には、助言等をいただき、サービスの課題解決や質の向上に努めている。 | | |
| 10 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 職員は外部研修等で学習する機会もあるので、他の職員に対して、制度の仕組みと理解を報告するようにしていきたい。ご利用者にとって、最善と思われる方法を提案できるよう努力していく。 | ○ | 現在ご利用されている方がいるので、これからも必要に応じて活用していきたい。 |
| 11 | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 勉強会やミーティング等で、高齢者虐待防止に関する理解と遵守にむけた取り組みをするようにしている。職員一人ひとりが日常生活の中で、言葉や行動の中に虐待と思わせるようなことがないかを、お互いが注意するよう努めている。 | ○ | 毎日の生活の中で敬愛の気持ちで接し、出来るだけ美しい丁寧な言葉がけをする。 |

グループホーム シライシップ

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|--|--|------|--|
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | |
| 12 | <p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> | <p>契約時には、契約内容や重要事項説明はもちろんの事、考えられるリスクやご利用者の状態変化による契約解除に至る場合も含め、理解と納得を得てから入所していただくようにしている。</p> | | |
| 13 | <p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> | <p>ご利用者の訴えや意見等は、介護記録や申し送り時に、全職員が共有し、ミーティング等で話しあい、運営や日々のケアに活かすようにしている。また、玄関先に意見箱を設置している。</p> | ○ | <p>不満や苦情の本音が出やすい雰囲気を作っていく。</p> |
| 14 | <p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> | <p>面会や家族会の開催時に、ご利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について個々にお知らせするようにしている。</p> | | <p>面会時のほか、必要に応じて電話や手紙等で、ご利用者の状況を報告することを継続していく。</p> |
| 15 | <p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> | <p>家族には、常に問いかけ、何でも言っていただけるような雰囲気づくりに留意している。また、直接言いにくい場合は、第三者機関を通じて行える事を、契約時にお伝えしている。</p> | | |
| 16 | <p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> | <p>毎月1回の職員会議に参加し、意見や提案を聞くように心がけ、職員の意見を反映するよう努力している。また、適宜面談を行っている。</p> | | |
| 17 | <p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> | <p>行事や通院介助、職員の突然の欠勤の時でも、人員不足が起きないように、状況に応じた勤務体制がとれるようにしている。</p> | | <p>緊急時には、管理者が24時間対応できるようにしている。</p> |
| 18 | <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> | <p>やむを得ず職員が退職した場合、ご利用者にダメージがないように心がけている。新しい職員が入ってきた場合は、ご利用者の方からホームのことを教えてもらうように促し、早く打ち解けられるような工夫をしている。</p> | | |

グループホーム シライシップ

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------|--|--|------|--|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | |
| 19 | <p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p> | <p>性別や年齢等を理由にして、採用の対象から排除することはない。休みの希望を取り入れ、各自が自己実現に向けて支障がないように、また目標が達成できるように配慮している。</p> | | |
| 20 | <p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p> | <p>研修等には積極的に参加するよう促し、社内研修でも人権の尊重について教育している。</p> | | <p>定期的に、勉強会をしていきたい。</p> |
| 21 | <p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p> | <p>社内での研修はもちろんのこと、外部で行われる研修等に対しても積極的に参加を促し、少しでも多くの職員が参加してもらえるような働きかけをしている。</p> | | |
| 22 | <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p> | <p>グループホーム協議会に加入し、サービスの質の向上になるよう、情報交換を行っている。</p> | | <p>他事業所に見学にいたりして、もっと多くの情報交換を得られるようにしていきたい。</p> |
| 23 | <p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p> | <p>定期的に、職員一人ひとりと面談する機会を設け、意見や悩みを言えるような場を作っている。</p> | | |

グループホーム シライシップ

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|---|--|------|---|
| 24 | 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている | タイムカードを確認し、超過勤務や遅刻等の有無を確認している。また、資格取得に向けた支援を行い、取得者については、良い評価をしてあげようとしている。 | | |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | |
| 25 | 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 入所前には、本人と面談を行い、身体状況・生活歴・心配事を聞いて、現在の状態の把握に努めている。常に傾聴する雰囲気づくりを忘れずに、本人の思いを受けとめられるよう努力している。 | | 面談を重ね信頼関係を築けるよう、最善の努力をしていきたい。 |
| 26 | 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 家族の思いや求めていることをよく聞き、ホームとして出来ること、家族にお願いする事等、本人は基より、家族とも信頼関係がもてるように努めている。 | | 家族のこれまでの苦労や経緯について、家族が話しやすい雰囲気をつくっていききたいと考えている。 |
| 27 | 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談時に、家族が困っていることや今後どうしていきたいかを聞き、現時点で何をすべきかを考えている。家族の思いに答えられるよう信頼関係を築きながら、利用者にとって、今どのサービスが必要かを職員間で話し合い、対応に努めている。 | | ホームで対応できない時は、地域のケアマネジャーや市の窓口等に相談し、よりよいサービスが受けられるよう援助している。 |
| 28 | 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 安心してホームの状況を把握してもらえるよう、本人や家族に前もって訪問していただき、生活状況やスタッフとの顔合わせ、他のご利用者との交流など、安心した上で入所していただくよう工夫している。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | |
| 29 | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 職員は共に生活をし、共に喜び、また淋しさに寄り添いながら、尊厳ある利用者の意見や教えに感服する等、日々喜怒哀楽を分かち合えるようにしている。一方的な介護ではなく、時にはご利用者に教えてもらいながら、その時々で助け合って生活している。 | | |

グループホーム シライシップ

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|---|--|------|---|
| 30 | 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている | 家族会や面会時に現在の状況を伝え、家族の方の気持ちを受け止めながら、お互いの情報の共有化を図り、家族と同じ思いで支援させてもらっている事を伝えらるよう努力している。 | | 出来る事や、出来なくなった事、小さな事でも常に家族に報告し、共に喜んだり、相談し合ったりしている。 |
| 31 | 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している | 本人の生活背景を把握し、家族との関係を理解できるよう努めている。本人の日々の生活状況を、報告、連絡、相談することによって、本人と家族との関係が薄れていかないように、支援している。 | | |
| 32 | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 利用者が以前利用していた美容院、理髪店等は引き続き利用してもらっている。又、友達、知人等の訪問については積極的に勧めている。 | | |
| 33 | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている | リビングにおいておやつタイムを設けて、皆でテレビを観たりしている。談笑する時間や気の合う利用者同士で話ができるよう、スタッフが間に入って調整役を行い、円滑で楽しい時間が過ごせるようにしている。 | | 密接な関係が、今以上に築いていけるよう努力していきたい。 |
| 34 | 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | 退所してからも家族から相談があり、その都度真摯に対応している。退所した家族の方とも、地域での有意義な交流を続けている。 | | いつでも気軽に立ち寄っていただける関係を、継続していきたい。 |
| . その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | |
| 35 | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 毎日の生活の中でふともらした言葉やつぶやきを理解し、何度も職員間で検討し、本人の意向を引き出している。意思疎通がはっきりしない方は、家族からの情報を得て検討するようにしている。 | | |

グループホーム シライシップ

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|--|---|------|---|
| 36 | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご利用者本人の口から、今までの生活歴をゆっくり聞けるような時間を、設ける努力をしている。 | | 本人、家族の過去や思い出に触れるため、プライバシーの保護には十分に配慮していきたい。 |
| 37 | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | 職員は、一人ひとりの生活リズムをきちんと把握しており、その方の心身状態に応じて、出来る事を引き出せるよう努めている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | |
| 38 | チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 本人や家族の思いや希望、主治医の意見、職員の気付きなどの様々な意見を検討し、介護計画に反映するようにしている。 | | 定期的に職員間で意見交換を行い、本人の視点での介護計画となるよう、今後も重要課題として行っていく。 |
| 39 | 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 本人・家族の要望、主治医の意見を取り入れて、期間終了前に見直しているが、その方の状態の変化がある場合には、期間途中であっても見直しをするようにしている。 | | 入院等で状態が変わるに応じて、期間途中でも介護計画の見直しをする。 |
| 40 | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 食事や排泄、バイタルチェック等、その日の様子の記録を取り、いつでも職員が確認できる状態にしておき、業務開始前、申し送り時には必ず情報を共有するようにしている。 | | ご利用者の状態変化を細かく記録するよう、心がけている。 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | |
| 41 | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 定期受診や緊急受診、急な外出や外泊、他のサービスの利用等、本人や家族の状況や要望に合わせて、臨機応変に対応ができるよう心がけている。 | | |

グループホーム シライシップ

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------|---|--|------|----------------------------------|
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | |
| 42 | 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | 自治会長、町内会、消防、学校等と協働を図り、意見交換が出来る機会を設けている。 | | |
| 43 | 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている | いつでも、必要に応じてサービスをつないでいけるように、他のケアマネジャーと連絡を図っている。 | | |
| 44 | 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 2カ月に一度の運営推進会議にて、情報交換、連携に努めている。 | | |
| 45 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入所前のかかりつけ医に、入所後も継続して受診していただいている。受診前も後も、ご利用者、家族に説明し、納得して頂いたうえでの支援をしている。 | | |
| 46 | 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している | 医師と密に連絡を取り、的確な指示・助言のもとでの支援をしている。 | | |
| 47 | 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている | 連携している医療機関より、月に2度程往診してもらい、その都度相談やアドバイスを受けて、緊急時に対応していただいている。 | | |

グループホーム シライシップ

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---|---|--|-----|--|
| 48 | <p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p> | <p>何度も医師、看護師、OT、PT等と、時期及び毎日の状態を確認しカンファレンスを行いながら、ご本人の意志に沿って、早期退院に向けて連携している。</p> | | <p>職員が面会に行き、状態を見守るようにしている。</p> |
| 49 | <p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p> | <p>状況の変化を常に家族に報告しながら、家族の意向を確認し、主治医や職員と話し合いを行い、支援につなげている。</p> | | <p>本人の思い、家族の思いを理解し、スタッフ全員で方針を共有できるようにする。</p> |
| 50 | <p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p> | <p>ご利用者や家族の意向を踏まえ、医師や職員が連携をとりながら、安心して納得のいく最期を迎えられるよう、意思を確認しながら取り組んでいる。</p> | | <p>様態が急変した場合は、すぐに対応していただけるよう、医療機関とも密に連携がとれるようにしていく。</p> |
| 51 | <p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p> | <p>入居前には、利用者の家族や関係者から十分な情報を収集し、本人にとっての環境の変化が、最小限に抑えられるような対策を話し合いながら、心身のダメージを防げるように努力している。</p> | | |
| <p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p> | | | | |
| 52 | <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> | <p>職員会議やミーティング等で、ご利用者に対する言葉遣いへの配慮、ご利用者の尊厳や権利を損なわないような話し合いを行っている。また、記録や個人ファイル等、個人情報の取り扱いには十分に注意をしている。</p> | | <p>日々、自分自身の行動を振り返り、馴れ合いの関係にならないよう心がけていく。今後も、個人情報の取扱いには、ミーティング等でスタッフに周知徹底させていく。</p> |

グループホーム シライシップ

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|--|---|------|---|
| 53 | 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している | ご利用者一人ひとりに対しての声かけの方法や内容を、ご利用者に合うようにしている。食事や衣服、入浴等についても、本人の希望を聞きながら、自己決定をしていただくように努めている。 | | |
| 54 | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 基本的な一日の流れはあるが、ご利用者の体調や気分によって、スタッフが臨機応変に対応できるようにしている。その時の、ご利用者の気持ちを尊重するようにしている。 | | ご利用者が主人公となって、今ご利用者が何をしたいかを把握しながら、一人ひとりのペースを大切にしていきたい。 |
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | |
| 55 | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている | ご利用者の希望により、以前から行きつけの理美容店に行くようにしている。衣類の選択は、ご利用者自身にさせていただけるように、支援している。 | | 起床時はもちろんの事、排泄後や入浴後の身だしなみにも、気を配っていきたいと考えている。 |
| 56 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 一人ひとりの好き嫌いを把握し、味付けを一緒にしたりして、楽しんで食事をしていただいている。ご利用者個々の力量に応じて、食事の準備や後片付けも、手伝っていただけるような声かけを行っている。 | | |
| 57 | 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している | 一人ひとりの嗜好を把握し、その時の体調に合わせて、日常的に楽しんでいただけるように支援を行っている。買物も同行して、好きなものを自分で選んでもらっている。 | | |
| 58 | 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している | 排泄チェック表に記録することによって、個々の排泄のパターンの変化を知るようにしている。 | | 時間を見ながら、トイレへの声かけや誘導を行っている。 |

グループホーム シライシップ

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|---|---|------|---|
| 59 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入浴の時間は、個々のペースに合わせてゆったりと介助できている。本人の希望時間帯、入浴方法に添った支援を行っている。 | | |
| 60 | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | 居室内の室温や明るさ、寝具等を整え、ご利用者が安眠しやすい環境を作れるようにしている。また、ソファーやイスに座っての休息時には、そのまま休めるようタオルケットをかけたリするなどの、配慮を行っている。 | | 夜間時の安眠状態を観察している。 |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 61 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 個々の得意分野での力を発揮してもらっている。出来そうな仕事をしてもらったり、ホーム内での役割を持つなど、活躍できる場を提供している。 | | まだまだ発揮できる力が多々あると思うので、その方の持つ力を最大限に活かせるようにしていきたい。 |
| 62 | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | トラブル回避のため、お金は事業所で預かっているが、買物に行った時は、本人に財布を渡し、買物が出来る喜びを味わってもらっている。 | | 家族とも相談しながら、本人の金銭管理の支援に取り組んでいく。 |
| 63 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | その方の状態を見ながら、少しの時間でも近くを散歩したり、季節毎には、ドライブに出かけたりと楽しんでいただいている。 | | |
| 64 | 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | 家族や地域の方々の支援を受けながら、外出する機会を取るようになっている。春にはみんなで計画を立て、花見に出かけるようになっている。 | | |

グループホーム シライシップ

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|--|---|------|----------------------------------|
| 65 | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご利用者からの希望があった場合には、プライバシーに配慮しながら、ゆっくり電話をかけられるよう支援している。手紙を書かれる方には、ハガキや切手の購入、投函等の支援を行っている。 | | 時々、絵手紙を書いたりしている。 |
| 66 | 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している | 面会時間は一応決めているが、それ以外の時間帯でも可能であると伝えている。他のご利用者にご迷惑のないよう、本人の居室へ案内し、ゆっくりお話が出来るようにしている。 | | スタッフは、訪問者を笑顔でお迎えしている。 |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | |
| 67 | 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束に関する勉強会を、社内ミーティングや外部研修等で共有認識が出来るようにしている。 | | |
| 68 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 日中は玄関に鍵をかけていない。ご利用者が外に出られる時は、自然な声かけをし、一緒に付いていくなどして安全面の配慮にも心がけている。 | | ご利用者一人ひとりの外出傾向を把握して対応していく。 |
| 69 | 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | 常時見守りを徹底し、ご利用者の行動を制限するのではなく、安全への配慮という意味での見守りを徹底している。 | | |
| 70 | 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | 刃物や薬品等の危険性があるものについては、スタッフが安全に保管管理を行っている。また、状況の変化に合わせ、注意喚起をするなどの対応をしている。 | | |
| 71 | 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | 日々のヒヤリハットを記録するとともに、その内容を職員同士が共有し合い、事故原因の検証と再発防止に努めている。 | | 事故防止のための知識を学ぶために、勉強会を開催していきたい。 |

グループホーム シライシップ

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|---|---|------|--|
| 72 | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている | 緊急マニュアルを作成し、看護師を中心に基礎的な応急の仕方を学んでいる。 | | 定期的の実技訓練をして、緊急時に対応できるようにする。 |
| 73 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 消防署の協力を得て、避難訓練や煙探知機等の設置を行っている。 | | 今後は、運営推進会議を通じて、地域の方々の協力も得られるようにしていく。非難訓練時は、近隣の方の参加 |
| 74 | リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている | 予測されるリスクについては、家族へ報告説明するようにしている。また、ケアプランに反映させて、リスク回避に努めるように心がけている。 | | 起こりうるリスクについては、定期的に見直すようにする。 |
| 75 | 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている | ご利用者一人ひとりの普段の様子を把握した上で、体調の変化にいち早く察知できるよう、日々の観察やバイタルチェックをしっかりと行う。職員同士の情報の共有を行い、変化が見られれば看護師や主治医の判断を仰ぐようにしている。 | | |
| 76 | 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個々の処方箋をファイルして、職員がいつでも薬の内容について把握できるようにしている。また、理解するよう努力している。配薬と服薬の確認を徹底している。 | | 職員自らが薬についての理解を深める努力をしていきたい。 |
| 77 | 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる | 下剤に頼ることなく、寒天デザート等の食物繊維のあるものを摂っていただくようにしている。体を動かす機会を多く持ち、水分補給に努めている。 | | |

グループホーム シライシップ

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|--|--|------|--|
| 78 | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている | 口腔ケアと肺炎の関係性を意識しながら、毎食後、口腔ケアの声かけや誘導を行い、清潔保持に気をつけている。歯磨きを拒否される方は、うがいをしてもらうようにしている。 | | |
| 79 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 献立のメニューが偏らないように、栄養面には気を配っている。個人の嗜好を取り入れつつ、塩分やカロリー過多には気をつけている。栄養士の意見も取り入れながら、よりよい食事ができるよう努力している。 | | |
| 80 | 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等) | 感染症に対する予防や対応は、スタッフミーティング、文書の回覧等を通じて、スタッフに周知徹底させている。 | | |
| 81 | 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている | 長期間の買置きはせず、こまめに買物をしてできるだけ新鮮な食材を使用している。まな板やふきんなどの調理器具の消毒を毎日実施している。 | | 衛生マニュアルを、スタッフがいつでも見られるような場所に置き、理解を深める。 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | |
| 82 | 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている | 玄関前に、ガーデニングを行っており、そばにあるベンチに座って、近隣の方とのコミュニケーションの場となっている。 | | |
| 83 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有空間の飾りつけや家具の配置等は、ご利用者と一緒に考えながら行っている。また、調理時に味見をしてもらったり、ゆず湯や菖蒲湯などに入り季節感を持っていただくことで、五感への働きかけを工夫している。 | | |

グループホーム シライシップ

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|--|---|------|---|
| 84 | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 玄関そばにベンチを置いたり、リビングで利用者同士が、いつでも自由に会話をされて過ごされている。 | | |
| 85 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人にとって思い出深く、使いなれた物を使用していただいている。タンスやイス以外にも、装飾品などの小物類を飾ってもらうなど、心地よく過ごせる空間にしている。 | | 今後も入所時には、本人、家族から情報をお聞きしたうえで、その人らしい居室作りをじっくり考えていく。 |
| 86 | 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている | 共有部分や居室は、常に換気をするように努めている。室内の温度についても、利用者に適温であるかどうかを尋ねるようにしている。 | | 定期的なこまめに換気を行っている。 |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | |
| 87 | 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 浴室、トイレ、廊下に手すりを設置している。 | | ご利用者の身体状況により、手すりの位置や、家具の配置など、今後も継続して検討していく。 |
| 88 | わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している | 生活の基本パターンを崩さぬよう、出来る事の見極めをして、自立の範囲を広げられる工夫をしている。 | | ご利用者個々の認知症症状を、今以上に理解するよう努力していきたい。 |
| 89 | 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている | 玄関の入口に、ご利用者が好きな四季の花々を植えて、その成長していく過程をみんなで楽しんでいる。 | | |

グループホーム シライシップ

| . サービスの成果に関する項目 | | 最も近い選択肢の左欄に をつけてください。 | |
|-----------------|--|-----------------------|--|
| 項 目 | | | |
| 90 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | ほぼ全ての利用者の | |
| | | 利用者の2/3くらいの | |
| | | 利用者の1/3くらいの | |
| | | ほとんど掴んでいない | |
| 91 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | 毎日ある | |
| | | 数日に1回程度ある | |
| | | たまにある | |
| | | ほとんどない | |
| 92 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | ほぼ全ての利用者が | |
| | | 利用者の2/3くらいが | |
| | | 利用者の1/3くらいが | |
| | | ほとんどいない | |
| 93 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている | ほぼ全ての利用者が | |
| | | 利用者の2/3くらいが | |
| | | 利用者の1/3くらいが | |
| | | ほとんどいない | |
| 94 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | ほぼ全ての利用者が | |
| | | 利用者の2/3くらいが | |
| | | 利用者の1/3くらいが | |
| | | ほとんどいない | |
| 95 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | ほぼ全ての利用者が | |
| | | 利用者の2/3くらいが | |
| | | 利用者の1/3くらいが | |
| | | ほとんどいない | |
| 96 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | ほぼ全ての利用者が | |
| | | 利用者の2/3くらいが | |
| | | 利用者の1/3くらいが | |
| | | ほとんどいない | |
| 97 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | ほぼ全ての家族と | |
| | | 家族の2/3くらいと | |
| | | 家族の1/3くらいと | |
| | | ほとんどできていない | |

グループホーム シライシップ

| 項 目 | | 最も近い選択肢の左欄に をつけてください。 | |
|-----|---|-----------------------|--|
| 98 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | ほぼ毎日のように | |
| | | 数日に1回程度 | |
| | | たまに | |
| | | ほとんどない | |
| 99 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | 大いに増えている | |
| | | 少しずつ増えている | |
| | | あまり増えていない | |
| | | 全くいない | |
| 100 | 職員は、生き生きと働いている | ほぼ全ての職員が | |
| | | 職員の2/3くらいが | |
| | | 職員の1/3くらいが | |
| | | ほとんどいない | |
| 101 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ほぼ全ての利用者が | |
| | | 利用者の2/3くらいが | |
| | | 利用者の1/3くらいが | |
| | | ほとんどいない | |
| 102 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ほぼ全ての家族等が | |
| | | 家族等の2/3くらいが | |
| | | 家族等の1/3くらいが | |
| | | ほとんどできていない | |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご利用者一人ひとりが、家庭と同様に安心して心やすらげるような雰囲気、ありのままの自分で過ごせるホームを目指しています。